

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・気温が高かった事もあり、春物の動きが堅調であった。カットソーとスプリングコートが好調に動いている。売上構成比は低いがワンピースがトレンドアイテムとなっている。	
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・暖冬で気温に恵まれ、来客数がかなり増えている。	
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年と比較して販売量の動きが好転している。特に生鮮品の動きが良い。	
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が数が月ぶりに前年をクリアした。	
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・薄型テレビやDVDレコーダーの価格がますます安くなり、地上デジタル放送の認知度が高まるに伴って販売数が伸びている。	
		乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・来客数は多くなってきたが、その分他社との競合が激しくなっており利益がなかなかでない。	
		乗用車販売店（管理担当）	来客数の動き	・最大需要期で来場者数が多く、販売台数も増加した。	
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・販売量も買上点数も落ち込みがあまりなく、好調さを維持している。	
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	来客数の動き	・例年2月は動きがないが、今年は暖冬により、来客数が増加した。	
		その他小売【雑貨卸】（総務担当）	販売量の動き	・個人の購買意欲が上がっており、リフォーム等の商品も高級志向で単価上昇の傾向がみられる。	
		高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・少し人の動きが出ており、高級料理も始めた。	
		都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・受験以外大きなイベントがないが、予約が非常に好調に推移している。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・長崎ランタンフェスティバルがあり、かなりの盛り上がりを見せた。タクシーの利用客が増えている。	
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・スポーツキャンプに伴い2月は集客、売上ともに前年比プラスとなった。ゴルフも継続して好調である。	
		競輪場（職員）	販売量の動き	・入場者数は横ばいであるが、発売額が上昇している。	
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・年末から商店街に来る来街者数が減っている。
			商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数、購買量共に増えていない。欲しいという行動は見受けられるが、購買に直接結びつかない。
			一般小売店【生花】（経営者）	お客様の様子	・卒業式用の花束の注文があまり入っていない。
			百貨店（営業担当）	来客数の動き	・婦人服は、リモデルによる売場移動、縮小のため売上が前年割れである。従来は「さよならセール」での集客・売上が得られたが、今回は客の動きが鈍い。一方、催事場や店外のサテライトショップの集客、売上は好調である。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・暖冬による衣料の販売不振が続いている。一足早く春物衣料を展開しているが、今一つである。商圏内の店舗での閉店セールにより、地区の消費はセール商材を中心に活性化している。	
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・暖冬の影響で既に春物が活発に動く気候だが、一向に販売量が伸びない。	
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・売出しも初日はそこそこ盛り上がるものの、2日目以降は動きが鈍くなる。客は購入に慎重で、衝動買いは見受けられない。高額品の動きが見られるものの、長く使いたいという購買頻度の減少につながる購入が多いのも特徴である。	
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・天候に恵まれ客の足は良く、販売量は健闘しているが、前年の実績維持にとどまっている。	

百貨店（売場担当）	販売量の動き	・来客数は若干の前年割れである。衣料品においては暖冬と言われながらも、紳士、婦人服の処分品及び春物についてはやや好調に推移している。食料品は昨年並みを維持しており、客単価、1品単価は若干のアップになっている。ただ家庭用品はずっと良くない。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・バレンタインデー等のイベントはまずまずであるが、日々の生活では出費を抑えている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・冬物商品の動きが悪い。天候・気温共に不安定で、売れるのは冬物商品か春物商品かの検討がつかない状況である。
スーパー（店長）	お客様の様子	・食品は全社的に見ても好調さが続いているが、衣料品は暖冬の影響により買上点数が前年比99%となっている。ただしランドセルや子どもの卒業式スーツなどは客単価が同10%ほど上昇し好調である。
スーパー（店長）	販売量の動き	・食品は総じてやや上向き傾向にあったが、衣料品関係の売行きが乏しい。特に紳士、子ども、肌着関係等この時期値下げして売る冬物衣料品の売上や販売量、来客数の伸びが今一つなかった。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・衣料品、住居用品が暖冬の影響をもろに受けてかなり厳しい状況が続いている。一方、食料品についてはほぼ前年並みをクリアしている状況である。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・大半の客が目的買いで来店しており、依然としてついでに買うという行動がほとんど見られない。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・寒暖の差が激しく、冬物商材の販売動向が鈍い。客単価下がり、総じて売上が前年を下回っている。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・若干、来客数が増加したものの、客単価の低下により結果的に売上は減少となった。
衣料品専門店	来客数の動き	・2月は例年動きが鈍いが、特に老舗のデパートが閉店セールを行っていることもあり、そちらに客が流れている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客の買物のし好が変わって来ている。客の高齢化が進んでおり、その変化についていっておらず、厳しい。
衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・暖冬で春物の動きは早かったが、スプリングコートやセレモニー用のスーツが主で、カジュアル物の動きがなかった。販売量は前年並みだった。冬物のファイナルセールは、かなり価格を落としてようやく前年を上回る売上を取ることができた。
家電量販店（企画担当）	単価の動き	・家電関係では薄型テレビの動きが良いが単価が安くなっており、利益はそう変わらない。またパソコンも新製品が出たが、単価が下がっているので売上は伸びていない。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・販売量は前年比95%で推移しており、減少傾向の動きは変わっていない。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・婚礼家具の動きが少しあり、売上はまあまあだが、来客数は少ない。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は2月に入り、下げ基調となった。ガソリンの出荷量は前年とほぼ変わらないが、ただ灯油は暖冬により前年を下回っている。
スナック（経営者）	来客数の動き	・暖冬のせいか例年に比べると深夜の客が増えている。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宴席数は前年より増加しているが、小型の宴席が多く、金額では前年割れしている。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・来客数は順調であるが、客単価は下がっている。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・学生を含めて、旅行の動きは好調である。旅行代金の安い時期に集中する傾向がある。
タクシー運転手	販売量の動き	・人の動き、物の動きが非常に活発になってきたが、単価が上がらないので景気としては横ばいである。
通信会社（管理担当）	販売量の動き	・販売量は横ばいである。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・有力販売代理店の獲得により販売量は増加したが、さらなる増加は望めない。
通信会社（総務担当）	販売量の動き	・販売量が若干減っている。
観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設については入場者はほぼ前年並みである。ゴルフ場は暖冬のため前年比20%増しの来場者数である。

	ゴルフ場（従業員）	販売量の動き	・入場者数は昨年並みの動向である。
	美容室（店長）	来客数の動き	・2月は特に売上が悪く、前年と同程度の来客数である。同業者からは、これほど悪いときはなかった、閉店も考えているという話を聞いた。
	設計事務所（代表取締役）	お客様の様子	・公共の建設事業は発注量が減少し、受注する側も低価格で受注しダンピング傾向は変わらない。民間の建設需要もマンションなどの業種に限られている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・ひな祭りで人通りは多くなっているが、なかなか購入に結びつかない。空き店舗等を使って商品を展示しており、人の入り良く、菓子等の土産は売れているが、一般の客の消費が大変鈍い。
	商店街（代表者）	競争相手の様子	・客は中心部の競合店へ移っており、客の動きが悪い。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・依然として客の出足が悪い。
	商店街（組合職員）	それ以外	・複数の空き店舗が売り物件となり1年以上経過している。
	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・来店客の中で高齢者の割合がかなり多いが、単価の高いものを差し控える傾向が強くなってきた。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	単価の動き	・客単価が下がってきているのに加え、来店頻度も上がらない。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・暖冬の影響も大きいですが、来客数は減少している。大型店の売出し攻勢の影響も大きい。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・ワンピースが売れる代わりにジャケットが売れない等、客のニーズに添った品ぞろえやヒット商品の決め手に欠けている。
	百貨店（営業担当）	それ以外	・周りの商店街の空き店舗がさらに増加している。
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・駐車場利用の来客数は変わらないが、他の交通機関利用の来客数は極端に減っている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・冬物衣料がほとんど売れない状況で、前年比72%で推移している。冬物半額値下げをしてやっと売れる状況となっており、衣料品は苦戦している。生鮮食料品は青果の相場が上がってきたので前年並みで推移している。一般的に特売商品が価格面で厳しい限界にあり、全体的には前年比97%で推移している。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・暖冬が続き、冬物商材が動かないまま春を迎えそうである。去年の年末から傾向が変わらない。
	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・来客数がピークだった昼休みの時間帯の客が極端に減っている。朝晩の来客数も減っているが昼ほどではない。
	コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店が前年比98.7%、コンビニエンスストアが同99.6%、スーパーが同100.8%で推移しており、3か月前より若干落ち込んでいる。
	衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・暖冬により、冬物セールを引っ張りつつも春物にはまだ早いという中途半端な状況で、セール品の動きも鈍い。春物の動きも一部以外あまり動かず、全体的には売上が落ちている。前半はまだ良かったが中盤以降失速した。
	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・暖冬で衣料品、重衣料のコート、毛皮が全く振るわなかった。ヤング衣料部門は香水や雑貨類が売れ、前年比は増加した。ミセス婦人服は単価が下がっており、前年割れであった。着物類も振るわず前年割れとなり、宝飾品も来客数が前年より減少して前年割れとなった。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・高額商品でも購入する客がいる一方、欲しくても購入出来ない客も多く存在し、二極化が顕著になってきた。	
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・イベントにより来客数は増えたが、低価格で客に奉仕するイベントであったため、特に利益は見込めなかった。	
その他飲食〔居酒屋〕（店長）	来客数の動き	・例年になく来客数が少ない。	

		観光型ホテル (営業担当)	単価の動き	・全体的に宿泊単価が上がらない。またネット等の普及により多くの施設の情報が得られるようになり、旅行形態が変わってきた。
		タクシー運転手	お客様の様子	・月初めは悪かったが、月末にかけて人の動きが突然良くなった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・思っていたより稼働率が悪く、夜の飲食関係が伸びず売上も上がらなかった。運転手仲間も悪戦苦闘している。
		通信会社(業務担当)	競争相手の様子	・携帯各社の品ぞろえを行う量販店の販売台数が伸びる一方、専門店は各社とも苦戦している。
		設計事務所(所長)	単価の動き	・仕事を獲得するために単価を安くする状況である。
	悪くなっている	スーパー(企画担当)	来客数の動き	・昨年後半にオープンした大型ショッピングセンターや大規模スーパー等の影響が依然として大きく、来客数が減少している。また、暖冬により、例年買上単価を底上げる鍋物・ホット商材の動きが非常に悪く、客単価も減少している。販促強化のタイムバーゲンセールや5倍ポイントサービスデーを実施しても落ち込みをカバーするまでには至っていない。その中でも節分商材やバレンタイン商材は展開タイミングの早期化や商品見直しにより、前年よりかなり伸長した。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・2月も1月同様客足がばったりと途絶え、売上ゼロの日が続いている。
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・例年シーズンオフで暇であるが、それでも暖冬の時には海岸にある関係で少しは忙しいのだが、今年は全く振るわなかった。
		都市型ホテル(総支配人)	競争相手の様子	・大手ビジネスホテルが出店し、パイの奪い合いが生じ、大変悪くなった。
企業動向関連	良くなっている			
	やや良くなっている	家具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・年度末間近ということもあり官公庁の受注は多い。特に、オフィス家具の需要がおう盛で各メーカーともかなり在庫の積み増しを行った様子である。パブル崩壊以降久しぶりに生産量が大幅に上がっている。ただ、家庭用家具の動きは鈍く、一般家庭での財布のひもは堅い。
		金融業	取引先の様子	・取引先の中小企業から、景気の良い話はあまり聞いていないが、悪いなりに何とか黒字を確保しており、前年度決算より上向きの様子である。
		不動産業	受注量や販売量の動き	・転勤者、就職者等からの賃貸物件仲介の受注が増えた。
	変わらない	窯業・土石製品製造業(経営者)	競争相手の様子	・受注関係も原材料の使用の仕方1、2月と変わっておらず、前年度よりも少なくなっている。同時に競争同業者間では少人数のところで組合を辞めるところが出ており、廃業も出ている。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注残を抱えていたので、今月は受注が落ち着いてきた。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・受注の引き合いはかなり出てきたが、材料の高騰と納期の短縮化で厳しい状況である。納期の短縮化から残業が増えている。
		通信業	受注量や販売量の動き	・発注者の投資が活発で受注量が前年よりも多少多くなっているが、単価は大変厳しい状況となっている。
		金融業(得意先担当)	取引先の様子	・当地は建設業関連の業者が多く、年度末に向けての工事の受注がかなりある。それに伴い若干資金需要はみられるが、厳しい状況である。
		金融業(営業担当)	取引先の様子	・地場建設業については、受注は増加しているが、単価は低水準なままであり、利益の増加までは至っていない。
	やや悪くなっている	農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・鳥インフルエンザの影響があり、前年を大きく下回っている。居酒屋関連はあまり変化はないが、スーパー関連の小売納品は2割ほど落ち込んでいる。加工メーカーへの納品も一部風評被害もあり納品量が減っている。加えて海外からの関連加工品も増えており国内生産に影響を与えている。
		農林水産業(従業員)	それ以外	・えさが非常に高くなっており、プロイラー生産処理施設については今後非常に厳しくなる。

		建設業（総務担当）	競争相手の様子	・中堅どころの建設会社が倒産した。38億円ほどの売上高があったが同額ほどの負債があった。倒産の原因は銀行の融資が出なかったことである。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・以前なら、ある業界は悪くても、他の業界に活況があったりするが、今はどの業種をみても動きが良いところがない。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・衣料品の出荷が悪い状態が続いている。半導体関連商品の出荷も減っている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・資金需要が低迷している。前年比プラスが続いていた貸出残高が9か月ぶりに減少に転じた。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・引き合い案件の件数が減少しており、今まで順調に推移してきた契約高も若干伸び悩み、増加にストップが掛かってきた。
	悪くなっている	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・飲酒運転問題で特にローカルの飲食店の酒の売上ダウンは前年比30%である。それに伴い酒販店の落ち込みがひどい。ほとんどの酒販店の売上は前年度を下回っている。
雇用関連	良くなっている	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・依然として求人数が前年を上回って推移している。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・人材紹介による正社員登用が増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数自体は微増で、欠員補充による増員という募集理由が目立っており、1件あたりの求人数も増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人と有効求人共に伸びは前年に比べて鈍化はしているが、依然前年比増と伸びている。最近では派遣求人が増えており、小売、サービスへのパート求人も増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・年末に落ち込んでいた新規求人、新規求職とも年明けから増加傾向にある。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・季節需要もあり、求人案件が増加している。特に、金融関係、建設関係の事務派遣、データ入力案件が増加している。
		学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・求人数は、2007年度卒業見込者を対象に確実に伸びており、既卒者を対象とする求人も散見される。採用側の求人意欲は高い水準にある。
変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・再就職支援部門モリストラが一段落したせいも、案件も停滞低迷し、先行き具体的な見通しが立たない状況である。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年度の変り目は、長期の案件を含め求人数の動きが活発になるが、今のところ伸びはない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・新卒の採用が堅調だが、あくまでも退職者補充が主で景気回復とまではいえない。北部九州地区は自動車関連産業の工場進出で雇用が期待されるが、特定企業の一時的なもので同じく景気順調とは呼べない。	
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・大規模ショッピングセンターの進出の影響により、業績が悪化し、複数店舗の閉鎖に追い込まれた地場企業がある。	
やや悪くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・当社が独自で調査している求人市場件数（アルバイト・パート雇用中心）が前年度に比較して2ポイント程度、低下している。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が減少していることに加え、正社員求人比率も減少している。	
	悪くなっている	-	-	-